

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /26）

**使い方** 声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この場面の山は助動詞の識別（ざり・さす・つ・らる）と、御息所の心情です。

**あらすじ**＝賀茂祭の見物で、葵の上の一行が、身分を隠して来ていた六条御息所の車を押しのけて場所を取る。御息所は行列が見えなくなったうえに、忍んで来ていた正体まで見破られ、深く傷つく。この恨みが、のちの物の怪につながっていく。

## 一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

大殿（おほと）には、かやうの御歩（あり）きも<sup>①</sup>をさをさし給はぬに、御心地（ここち）さへ悩ましければ、<sup>②</sup>思しかけざりけるを、若き人々、「いでや、一人々々（ひとりひとり）して<sup>③</sup>見給はむこそ、はえなからめ」など言ひて、<sup>④</sup>出で立ち給ふ。

日たけゆきて、儀式も<sup>⑤</sup>わざとならぬさまにて出で給へり。隙（ひま）もなう立ちわたりたるに、よき女房車（にようばうぐるま）多くて、雑々（ざふざふ）の人なき隙を思ひ定めて、<sup>⑥</sup>皆さし退（の）けさする中に、網代（あじろ）のすこしなれたるが、下簾（したすだれ）のさまなど<sup>⑦</sup>よしばめるに、いたう引き入りて、ほのかなる袖口・裳（も）の裾・汗衫（かざみ）など、物の色いと清らにて、<sup>⑧</sup>ことさらにやつれたるけはひしるく見ゆる車、二つあり。

「これは、さらに、さやうに<sup>⑨</sup>さし退けなどすべき御車にもあらず」と、<sup>⑩</sup>口強（くちこは）くて、手触れさせず。…つひに御車ども<sup>⑪</sup>立て続けつれば、<sup>⑫</sup>副車（ひとだまひ）の奥に<sup>⑬</sup>押しやられて、物も見えず。

<sup>⑭</sup>心やましきをばさるものにて、かかるやつれをそれと知られぬるが、<sup>⑮</sup>いみじうねたきこと、限りなし。

語注 大殿＝葵の上のお邸（左大臣家）。御歩き＝お出かけ。をさをさ＝ぬ＝ほとんどく。思しかく＝お考えになる。はえなし＝見ばえがしない。日たく＝日が高くなる。儀式＝格式・作法。網代＝網代車。上級貴族の乗る牛車。下簾＝牛車の簾の内側に垂らす布。よしばむ＝風情ありげである。汗衫＝女児の上着。やつる＝目立たないように質素にする。しるし＝はつきりしている。口強し＝強気に言い張る。副車＝ひとだまひ。お供の者が乗る車。心やまし＝不愉快だ。さるものにて＝それはそれとして。ねたし＝しやくにさわる・くやしい。

A 語句の意味と読み（1～6）

- (1) ①の「をさをさくぬ」の意味を書け。
- (2) ⑤「わざとならぬさま」の意味を書け。
- (3) ⑦「よしばめる」の意味を書け。
- (4) ⑫「副車」と、本文中の「汗衫」「下簾」の読みを、それぞれ現代かなづかいで書け。
- (5) ⑮の「ねたき」の意味を書け。
- (6) ⑧の「やつれ」の意味を書け。

B 文法（7～12） ※敬語・ざり・係り結び・さす・う・らぬ

- (7) ①の「給は」と④の「給ふ」は、敬語の種類と、誰から誰への敬意を表すか。
- (8) ②「思しかけざりける」の「ざり」は文法的に何の何形か。終止形（基本形）も書け。
- (9) ③の「む」と「め」は、それぞれ何の助動詞か。係り結びの関係も説明せよ。
- (10) ⑥の「さする」は文法的に何の何形か。意味も書け。
- (11) ⑪「立て続けつれば」の「つれ」は文法的に何の何形か。
- (12) ⑬「押しやられて」の「られ」は文法的に何の何形か。意味も書け。

## C 誰の・何のことか (13～15)

(13) ⑧の車に乗っていたのは誰か。また、なぜそのような様子で来ていたのかも書け。

(14) ⑨のように言い張っているのは、どちら側の人々か。⑩を手がかりに書け。

(15) ⑭の「さるもの」とは、何を指しているか。

## D 口語訳 (16～19)

(16) ①を含む「大殿には、かやうの御歩きもをさをさし給はぬに」

(17) ③「一人々々して見給はむこそ、はえなからめ」

(18) ⑨「さし退けなどすべき御車にもあらず」を含む「これは、さらに、さやうにさし退けなどすべき御車にもあらず」

(19) ⑫・⑬を含む「副車の奥に押しやられて、物も見えず」(主語を補って訳すこと)

## E 内容・記述 (20～23) ★御息所の心情が山

(20) 葵の上が、ふだんはしないこの見物に出かけることになったきっかけを、二つ書け。

(21) ⑭・⑮から、御息所にとって「行列が見えないこと」と「正体を知られたこと」のどちらがより深い痛手だったと読み取れるか。理由もつけて書け。

(22) ⑮とあるが、御息所はどのような点をくやしいと感じているのか。本文に即して書け。

(23) この場面で受けた屈辱は、のちの物語でどのような出来事につながっていくか。簡潔に書け。

## F 文学史 (24～26)

(24) 『源氏物語』の作者名を漢字で書け。また、成立した時代を書け。

(25) 『源氏物語』が大成した、伝説や空想をもとにした物語の系譜を何というか。

(26) この「車争ひ」の当事者で、のちに物の怪に苦しめられて世を去る光源氏の正妻は誰か。

【テスト直前チェック】この三つ ①「押しやられて」の「られ」は受身。尊敬ではありません。御息所の車が「押しやられた」側だからです。②「心やましきをばさるものにて」＝見えないことは二の次。本当の痛手は「正体を知られたこと」。記述はここです。③「をさをさ〜ぬ」＝ほとんど〜ない。下に打消がくる副詞です。